



## 目標に向かって努力し続けるたくましさ

校長 武田 泰之

6月24日(月)子どもたちが待ちわびていた水泳、水遊びの学習がはじまりました。今年度は、4年生の授業から学習がスタートしました。子どもたちは、安全に学習を行うため約束をしっかりと守り、進んで水泳運動に取り組んでいました。暑くて蒸し暑い中、気持ちよさそうに水に親しむ様子が見られました。

さて、水泳というと、日本記録保持者であり2大会連続でオリンピック出場を果たすとともに、今年開催されるパリオリンピックへの出場も決めている池江璃花子選手に期待が集まっています。池江選手は、最近では6月にイタリアのローマで開催された国際大会の女子50mと100mバタフライにおいて、第2位という素晴らしい結果を残しています。

日本を代表する選手として大活躍している池江選手ですが、およそ5年前の2019年2月に急性リンパ性白血病を患いました。当時、東京オリンピックのメダル候補として期待されていた池江選手が病氣療養するというニュースを聞いて、私はたいへん驚いたことを覚えています。その後、約10か月にもおよぶ入院治療の後、2020年3月にプールでの練習を再開しました。闘病生活で体力が低下し、病気の前の体調に戻るには長い時間がか



【水泳の学習に取り組む4年生の様子】



【RIKAKO IKEE OFFICIAL SITE より】

かるだろうと思われていましたが、池江選手は、わずか1年あまりでプールに戻ってきたのです。重い病から復帰するまでには、医療関係者のサポートもあったと思いますが、本人のたゆまぬ努力が背景にあったことは間違いありません。そして、池江選手には、絶対にあきらめられない目標があったそうです。それは、2024年のパリオリンピックに出場するという目標でした。だからこそ、目標の達成に向けて病気の治療とともに、水泳の練習を重ねたというのです。池江選手の驚異的な努力の結果、パリオリンピックを待たずに、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により1年延期となった2021年に開催された東京オリンピックにおいて、400mメドレーリレー

などの選手として3種目に出場を果たすことができました。池江選手は、「努力は必ずしも報われるわけではない。だけどその努力が報われるまで努力し続ける」と語っています。オリンピック出場までには、想像もできない努力があったと思いますが、池江選手の水泳に対する強い想いがあったからこそ自分の可能性を信じて目標に向かってあきらめず歩み続けられたと思います。現在、池江選手は、7月のパリオリンピックに向け準備を行っています。目標を明確に定め、競技に真剣に取り組む池江選手の活躍を心から応援しています。

大砂土東小学校の子どもたちにも、それぞれ目標やがんばっていることがあると思います。今、明確に目標が定まっていなくても、いずれ目指すべき明確な目標が定まるかもしれません。今後、自分で定めた目標の達成に向けて「あきらめない気持ち、やり続ける気持ちをもち続ける。」ことは、なかなか簡単なことではないでしょう。しかし、池江選手が決してあきらめなかったように本気で定めた目標に向かって努力し続けるということを心にとめてほしいと思っています。本校の学校教育目標にある「たくましく」とは、強さとともに柔軟さも考えることができます。今後の先行きが不透明な時代を生きる子どもたちには、池江選手のように困難な課題に対しても、自分を信じて強い気持ちを持ち、あきらめず柔軟に対応しながら努力し続けて欲しいと願っています。学校では今後も、子どもたちが「たくましく」よりよい成長ができるよう教育活動を進めてまいります。1学期もまもなく終了しますが、保護者、地域の皆様には、引き続き教育活動にご支援を賜りますようお願いいたします。